

ちょっと読んでみませんか（令和二年春季彼岸）

第53話『問答形式『Q&A』』 （本源寺副住職 本間健司）

新型コロナウイルスの問題で日本中世界中が大混乱ですが、こういう時だからこそ、背筋を伸ばし、深呼吸をして、仏前でお題目をゆつくりお唱えする。そして、冷静に動揺しない心を創っていく。その大切さを実感します。

つついテレビやネットの情報に影響を受け、不安な気持ちになってしまいがちです。ので、ぜひ日々の習慣を大切にしてほしいと思います。

さて、先日、後輩の僧侶と話をしていた時に、ふと、次のような質問を受けました。

「日蓮聖人のご文章には、相手が質問をしてそれに答える、という『問答形式』のものが多くありますが、どうしてそういう説き方・方法を使ったんですかね？」と。

「きつと、そのほうが読んだ人が理解しやすいし、相手からの質問を想像することで、日蓮聖人ご自身も、心の中にある疑問と向き合っていたんじゃないのかな。」と私は答えました。

それに対して後輩は、「たしかに、この前読んだ心理学の本が『Q&A』になっていて、とても分かりやすかったです！」と話してくれました。

問答形式は、現代では『Q&A』(Question 質問&Answer 答え)とも表現されます。

その時は後輩の話をなんとなく聞いていましたが、後になってみて、「そういえば、プリントのなかで『Q&A』で書いたことって無かったかも知れない…」と思いきや、今回は、仏教の身近なことについて『Q&A』を試してみたいと思います。

肩の力を抜いてお読み下さい。

Q、お彼岸ってどういう意味があるんですか？

（これは実際に、お彼岸棚経の際に受けた質問です。）

A、まず、「彼岸」という言葉ですが、これは文字通り「彼の岸」つまり「向こう岸」のことを指します。では、何の「向こう岸」かというと、それはいわゆる「三途(さんず)の河」を挟んだ「向こう岸」のことです。

人の魂が亡くなった後に渡るといわれる「三途の河」ですが、その「彼岸」向こう岸にあるのが、悟り(救い)の世界である『靈山浄土(りょうぜんじょうど)』です。

ですから、亡くなられたご先祖様が、無事に三途の河を渡り切って「彼岸」である「浄土」にたどり着いていますように、という祈りを込め供養を行うのが「お彼岸」という行事になります。

でも「お彼岸」には、実はもうひとつ大切な意味があるんです。

それは、生きている私たち自身も、命ある今のうちから、「彼岸」に渡るための『心(魂)の準備』をしておきましょう、ということなのです。

そのために仏教では、古来、「お彼岸」に行うべき善行として、「六波羅蜜(ろくはらみつ)」という6つの行いが勧められてきました。

- ① 他に施す(布施)^{ふせ}
- ② 乱れた生活を慎む(持戒)^{じかい}
- ③ 怒らない(忍辱)^{にんにく}
- ④ 物事に一心に取り込む(精進)^{しょうじん}
- ⑤ 冷静さを保つ(禪定)^{ぜんじょう}
- ⑥ 生き方を見つめ直す(智慧)^{ちえ}

もちろん、この6つ全てを意識して生活することが理想ですが、私としては、そのなかでも特に【③忍辱(怒らない)】を意識することが、まずは大切だと考えます。

なぜならば、「怒り」は“地獄の業(ごう)”とも呼ばれ、全ての善根(徳)を消してしまうとも言われているからです。

「先祖供養」と「魂の準備」。「お彼岸」に込められた二つの大切な意味について、ご家族でも話し合ってみてはいかがでしょうか。

Q、「先祖様はお墓にいますか？」

A、樹木葬や散骨など葬り方が多様化する中で、「故人の魂は、一体どこにいるのだろうか？」という疑問は、避けて通れないことだと思えます。

日本人の感覚的には、何となく、お骨のある場所にいつも魂も居るような気がします。が、仏教的には、それは正解でもあるし間違いでもあると考えられます。

ご先祖様の魂や霊的な存在は皆、ある程度自由自在に動き回ることができるので、きちんと手を合わせてくれる人がいれば、もちろんお墓に居てくれるでしょうし、そうでなければ、いつもあちこち飛び回っているなんてこともあるかも知れません。

お墓のように、魂などの霊的存在が留まる場所(もの)を「依代(よりしろ)」といい、お墓以外にも、仏壇や位牌、また供養塔としての塔婆も「依代」に当たります。

「依代」は、魂(霊)が留まってくれるように清浄しておく必要があるのです、必ず「開眼(かいげん)供養」という儀式を行って、「依代」に仏様の魂を宿します。

お墓や仏壇に手を合わせる時に、「きつと今ご先祖様が逢いに来てくれてるね。」なんて声を掛け合ってみてはいかがでしょう？

今回は、二つの身近な『Q&A』を取り上げてみましたが、いかがでしたか？

素朴な疑問で、今さらこんなことを聞くのも恥ずかしいな、と感じることも、どうぞ遠慮なくご質問ください。

すぐにお答え出来ない質問については、後々調べてからお答えします。また、このプリントのなかでも、『Q&A』として取り上げさせて頂きたいと思えます。

最後に、新型コロナウイルスの災害が速やかに収束することを一心に祈念し、合掌

南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經